宮城県農業土木工事施工管理基準　新　旧　対　照　表（令和３年１０月）

（下線の部分は改正部分）

＜　改定後（令和３年 10 月）　＞	＜現行（令和元年 10 月）＞	＜備　考＞

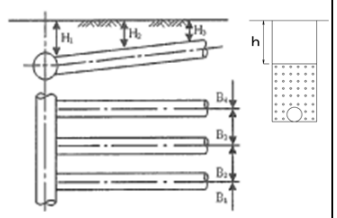
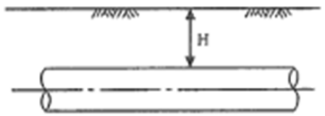
宮城県農業土木工事施工管理基準

第１項　［略］

第２項　直接測定による出来形管理

１　共通工事　～　３　ほ場整備工事　［略］

工種		項目	管理基準値（mm）	（参考）規格値（mm）	測定基準
4 暗渠排水工事	吸水渠	布設深（H）	⊕ 100 ⊖ 50	⊖ 75	上、下流端の2箇所を測定する。ただし、1本の布設長がおおむね50m以上のときは、中間点を加えた3箇所を測定する。
		間隔（B）	± 500	± 750	
		施工延長		⊖ 0.2％ ただし延長500m以下 ⊖ 1,000	
		もみがら深（h）	⊖ 100 ⊕ 30	⊕ 45	埋戻後：1筆1箇所程度測定する。
		もみがら袋検収	－	－	20ha毎に1回程度かつ2回以上確認する。（無転圧状態）
	集水渠（支線）導水渠（幹線）	布設深（H）	⊕ 100 ⊖ 50	⊖ 75	集水渠：吸水渠の接点毎に測定する。導水渠：施工延長おおむね50mにつき1箇所の割合で測定する。
		施工延長		⊖ 0.2％ ただし延長500m以下 ⊖ 1,000	
	水閘	箇所数（n）	－	－	全箇所測定する。

管理方式			測定箇所標準図	摘要
管理図表によるもの（様式2－1、2－2）	結果一覧表によるもの（様式3－1）	構造図に朱記、併記するもの		
布設深、間隔で20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの及び施工延長	－		
布設深で20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの及び施工延長	－		

５　畑地かんがい施設工事　～　１４　ため池工事　［略］

別表　ア～カ　［略］

第３項　～　第４項　［略］

［第５項　削除］

宮城県農業土木工事施工管理基準　新　旧　対　照　表（令和３年１０月）

（下線の部分は改正部分）

＜改定後（令和３年 10 月）＞	＜現行（令和元年 10 月）＞	＜備　考＞

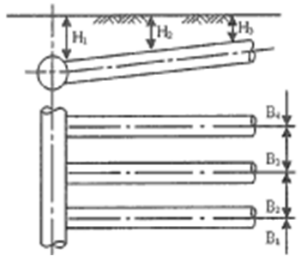
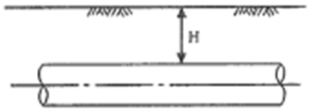
宮城県農業土木工事施工管理基準

第１項　［略］

第２項　直接測定による出来形管理

１　共通工事　～　３　ほ場整備工事　［略］

工種		項目	管理基準値（mm）	（参考）規格値（mm）	測定基準
4 暗渠排水工事	吸水渠	布設深（H）	⊕100　⊖50	⊖75	上、下流端の2箇所を測定する。ただし、1本の布設長がおおむね50m以上のときは、中間点を加えた3箇所を測定する。
		間隔（B）	±500	±750	
		施工延長		⊖0.2% ただし延長500m以下 ⊖1,000	
		もみがら厚（t）	⊖30	⊖45	投入時：上記と同様とする。 埋戻後：1筆1箇所程度測定する。
		もみがら袋検収	－	－	20ha毎に1回程度かつ2回以上確認する。（無転圧状態）
	集水渠（支線） 導水渠（幹線）	布設深（H）	⊕100　⊖50	⊖75	集水渠：吸水渠の接点毎に測定する。 導水渠：施工延長おおむね50mにつき1箇所の割合で測定する。
		施工延長		⊖0.2% ただし延長500m以下 ⊖1,000	
	水閘	箇所数（n）	－	－	全箇所測定する。

管理方式：管理図表によるもの（様式2－1、2－2）	管理方式：結果一覧表によるもの（様式3－1）	管理方式：構造図に朱記、併記するもの	測定箇所標準図	摘要
布設深、間隔で20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの及び施工延長	－		
布設深で20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの及び施工延長	－		

５　畑地かんがい施設工事　～　１４ため池工事　［略］

別表　ア～カ　［略］

第３項　～　第４項　［略］

第５項　県工事検査基準及び土木工事技術基準（標準例）　［本文記載省略］

宮城県農業土木工事施工管理基準　新　旧　対　照　表（令和３年１０月）

（下線の部分は改正部分）

＜　改定後（令和３年 10 月）　＞	＜現行（令和元年 10 月）＞	＜備　考＞
第５項　施工管理記録様式 （出来形管理関係） 様式 1 年度　　工事 出来形管理図表 品質管理図表 種　目 事業所　　支所　　受注会社名 注）　1. 出来形(品質)管理図表は、本表紙様式により、工種毎に綴るものとする。ただし、小規模工事については、監督職員の承認を得て、全工種分を一括綴りとすることができる。 2. 種目は、基準高、厚さ、幅等と記入する。	第６項　施工管理記録様式 （出来形管理関係） 様式 1 平成　年度　　工事 出来形管理図表 品質管理図表 種　目 事業所　　支所　　受注会社名 注）　1. 出来形(品質)管理図表は、本表紙様式により、工種毎に綴るものとする。ただし、小規模工事については、監督職員の承認を得て、全工種分を一括綴りとすることができる。 2. 種目は、基準高、厚さ、幅等と記入する。	

宮城県農業土木工事施工管理基準　新　旧　対　照　表（令和３年１０月）

（下線の部分は改正部分）

＜　改定後（令和３年 10 月）　＞

様式 2－1

出来形管理図表

工事名　　受注会社名

工種名　　測定者

管理基準値 A		規格値 B		測定単位
＋	－	＋	－	

番号	月日	測点	設計値 C	実測値 D	設計値との差 E＝D－C	管理基準値との差 F＝|A|－|E|	設計値との差

記入事項

1. 「工種名」は、掘削（基準高（V））、フルーム（厚さ（T））、横台工（中心線のズレ（e））等と記入する。
2. 「番号」の欄は、施工順位を記入し、「測点」の欄は当該測点番号を記入する。
3. 「月日」の欄は測定年月日を記入する。
4. 設計値との差の単位を定め、目盛りに数値を記入する。
5. Fを算出する|A|値は、E＞0の場合は＋側の値を、E≦0の場合は－側の値を用いる。また、|A|値が＋側か－側の片方、若しくは両方にない場合は、その符号側はF＝「－」とする。

測定箇所図

＜現行（令和元年 10 月）＞

様式 2－1

出来形管理図表

工事名　　受注会社名

工種名　　測定者　　印

管理基準値 A		規格値 B		測定単位
＋	－	＋	－	

番号	月日	測点	設計値 C	実測値 D	設計値との差 E＝D－C	管理基準値との差 F＝|A|－|E|	設計値との差

記入事項

1. 「工種名」は、掘削（基準高（V））、フルーム（厚さ（T））、横台工（中心線のズレ（e））等と記入する。
2. 「番号」の欄は、施工順位を記入し、「測点」の欄は当該測点番号を記入する。
3. 「月日」の欄は測定年月日を記入する。
4. 設計値との差の単位を定め、目盛りに数値を記入する。
5. Fを算出する|A|値は、E＞0の場合は＋側の値を、E≦0の場合は－側の値を用いる。また、|A|値が＋側か－側の片方、若しくは両方にない場合は、その符号側はF＝「－」とする。

測定箇所図

＜備　考＞

宮城県農業土木工事施工管理基準　新　旧　対　照　表（令和３年１０月）

（下線の部分は改正部分）

＜　改定後（令和３年 10 月）　＞	＜現行（令和元年 10 月）＞	＜備　考＞
様式 2－2 度　数　表 工 事 名 工 種 名 年　月　日 現 在 受注会社名 測 定 者 度数（回） （－）←― 設 計 値 と の 差 ―→（＋） 注）出来形管理で20点以上の場合使用する。	様式 2－2 度　数　表 工 事 名 工 種 名 平 成　年　月　日 現 在 受注会社名 測 定 者　印 度数（回） （－）←― 設 計 値 と の 差 ―→（＋） 注）出来形管理で20点以上の場合使用する。	

宮城県農業土木工事施工管理基準　新　旧　対　照　表（令和３年１０月）

（下線の部分は改正部分）

＜　改定後（令和３年 10 月）　＞

様式 3−1

測定結果一覧表

工事名　　受注会社名

工種名　　測定者

管理基準値 A		規格値 B		測定単位
＋	−	＋	−	

管理基準値 A		規格値 B		測定単位
＋	−	＋	−	

番号	月日	測点	設計値 C	実測値 D	設計値との差 E=D−C	管理基準値との差 F=|A|−|E|	番号	月日	測点	設計値 C	実測値 D	設計値との差 E=D−C	管理基準値との差 F=|A|−|E|

記入事項

1. 「工種名」は、掘削（基準高（V））、フルーム（厚さ（T））、構台工（中心線のズレ（e））等と記入する。
2. 「番号」の欄は、施工順位を記入し、「測点」の欄は当該測点番号を記入する。
3. 「月日」の欄は測定年月日を記入する。
4. Fを算出する|A|値は、E＞0の場合は＋側の値を、E≦0の場合は－側の値を用いる。また、|A|値が＋側か－側の片方、若しくは両方にない場合は、その符号側はF=「－」とする。

＜現行（令和元年 10 月）＞

様式 3−1

測定結果一覧表

工事名　　受注会社名

工種名　　測定者　　印

管理基準値 A		規格値 B		測定単位
＋	−	＋	−	

管理基準値 A		規格値 B		測定単位
＋	−	＋	−	

番号	月日	測点	設計値 C	実測値 D	設計値との差 E=D−C	管理基準値との差 F=|A|−|E|	番号	月日	測点	設計値 C	実測値 D	設計値との差 E=D−C	管理基準値との差 F=|A|−|E|

記入事項

1. 「工種名」は、掘削（基準高（V））、フルーム（厚さ（T））、構台工（中心線のズレ（e））等と記入する。
2. 「番号」の欄は、施工順位を記入し、「測点」の欄は当該測点番号を記入する。
3. 「月日」の欄は測定年月日を記入する。
4. Fを算出する|A|値は、E＞0の場合は＋側の値を、E≦0の場合は－側の値を用いる。また、|A|値が＋側か－側の片方、若しくは両方にない場合は、その符号側はF=「－」とする。

＜備　考＞

宮城県農業土木工事施工管理基準　新　旧　対　照　表（令和３年１０月）

（下線の部分は改正部分）

＜　改定後（令和３年 10 月）　＞

様式 3－2

鋼管溶接測定結果一覧表

工事名　　受注会社名

工種名　　測定者

測定位置	実測値				管理基準値	摘　要
	X	Y	X'	Y'		

＜現行（令和元年 10 月）＞

様式 3－2

鋼管溶接測定結果一覧表

工事名　　受注会社名

工種名　　測定者　　印

測定位置	実測値				管理基準値	摘　要
	X	Y	X'	Y'		

＜備　考＞

宮城県農業土木工事施工管理基準　新　旧　対　照　表（令和３年１０月）

（下線の部分は改正部分）

＜　改定後（令和３年 10 月）　＞	＜現行（令和元年 10 月）＞	＜備　考＞

様式 3－3

鋼管溶接、塗覆装点検表

工事名　　受注会社名

測定者

測定位置	工　種	項　目	判　定		摘　要
			良	否	

様式 3－3

鋼管溶接、塗覆装点検表

工事名　　受注会社名

測定者　　印

測定位置	工　種	項　目	判　定		摘　要
			良	否	

宮城県農業土木工事施工管理基準　新　旧　対　照　表（令和３年１０月）

（下線の部分は改正部分）

＜　改定後（令和３年 10 月）　＞

様式 3－4

管 水 路 ジ ョ イ ン ト 間 隔 測 定 結 果 一 覧 表

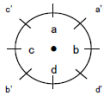
工 事 名

受注会社名
測 定 者

管種名（呼び径）	測定年月日	測定位置（管番号）	測定値（接合時）					管理基準値	判定	備　考	測定年月日	測定値（埋戻後）				（参考）規格値	判定	備　考
			a	b	c	d	平均					a	b	c	d			

注 1. 管理基準値は接合時の値であり、4箇所の平均とする。
2. （参考）規格値は埋戻し後の値であり、原則として4箇所のうち1箇所でもこの値を超えてはならない。
3. 測定は、呼び径700mm以下の場合は管の外から測定しても良い。
また、埋戻し後の測定は、原則として呼び径700mm以下の測定は必要ない。
4. 管の外から測定する場合の測定位置は、a'、b'、c'、d'の位置とする。
5. 強化プラスチック複合管のD形の場合は、受口側と挿口側を各々測定すること。

測定箇所



＜記載例＞

測定位置	測定値 a	b	c	d	平均
NO.○○受（受口側データ記載）					
〃　挿（挿口側データ記載）					

（参考）
標線による計測　　ジョイント間隔＝受け口長l_2－（標線長h－測定長x_1）
標線によらない計測　　ジョイント間隔＝受け口長l_2－（管有効長L－測定長x_2）

＜現行（令和元年 10 月）＞

様式 3－4

管 水 路 ジ ョ イ ン ト 間 隔 測 定 結 果 一 覧 表

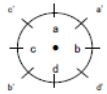
工 事 名

受注会社名
測 定 者　　印

管種名（呼び径）	測定年月日	測定位置（管番号）	測定値（接合時）					管理基準値	判定	備　考	測定年月日	測定値（埋戻後）				（参考）規格値	判定	備　考
			a	b	c	d	平均					a	b	c	d			

注 1. 管理基準値は接合時の値であり、4箇所の平均とする。
2. （参考）規格値は埋戻し後の値であり、原則として4箇所のうち1箇所でもこの値を超えてはならない。
3. 測定は、呼び径700mm以下の場合は管の外から測定しても良い。
また、埋戻し後の測定は、原則として呼び径700mm以下の測定は必要ない。
4. 管の外から測定する場合の測定位置は、a'、b'、c'、d'の位置とする。
5. 強化プラスチック複合管のD形の場合は、受口側と挿口側を各々測定すること。

測定箇所



＜記載例＞

測定位置	測定値 a	b	c	d	平均
NO.○○受（受口側データ記載）					
〃　挿（挿口側データ記載）					

（参考）
標線による計測　　ジョイント間隔＝受け口長l_2－（標線長h－測定長x_1）
標線によらない計測　　ジョイント間隔＝受け口長l_2－（管有効長L－測定長x_2）

＜備　考＞

宮城県農業土木工事施工管理基準　新　旧　対　照　表（令和３年１０月）

（下線の部分は改正部分）

＜　改定後（令和３年 10 月）　＞

様式 3－5

埋設とう性管たわみ量管理表

工事名　　受注会社名

管種(長さ)　　測定者

測定位置（管番号）	管据付時				管頂埋戻し時				埋戻し完了時				D+t(mm)（内径）(管厚)
	Du mm	たわみ率 %	Dh mm	たわみ率 %	Du mm	たわみ率 %	Dh mm	たわみ率 %	Du mm	たわみ率 %	Dh mm	たわみ率 %	

たわみ率の計算

$$\frac{\Delta X}{2R} \times 100(\%)$$

$\Delta X = [2R-(Du+t)]$ 又は $[2R-(Dh+t)]$

2R：管厚中心直径

t：管厚

注）1．マーキング位置における測定値を記入する。

2．測定については「土木工事施工管理基準」別表第1 直接測定による出来形管理　管水路工事　管水路（埋設とう性管）の測定基準による。

3．矢板引抜き時の測定は、「管頂埋戻し時」の欄に測定値を記入する。

＜現行（令和元年 10 月）＞

様式 3－5

埋設とう性管たわみ量管理表

工事名　　受注会社名

管種(長さ)　　測定者　　印

測定位置（管番号）	管据付時				管頂埋戻し時				埋戻し完了時				D+t(mm)（内径）(管厚)
	Du mm	たわみ率 %	Dh mm	たわみ率 %	Du mm	たわみ率 %	Dh mm	たわみ率 %	Du mm	たわみ率 %	Dh mm	たわみ率 %	

たわみ率の計算

$$\frac{\Delta X}{2R} \times 100(\%)$$

$\Delta X = [2R-(Du+t)]$ 又は $[2R-(Dh+t)]$

2R：管厚中心直径

t：管厚

注）1．マーキング位置における測定値を記入する。

2．測定については「土木工事施工管理基準」別表第1 直接測定による出来形管理　管水路工事　管水路（埋設とう性管）の測定基準による。

3．矢板引抜き時の測定は、「管頂埋戻し時」の欄に測定値を記入する。

＜備　考＞

宮城県農業土木工事施工管理基準　新　旧　対　照　表（令和３年１０月）

（下線の部分は改正部分）

＜　改定後（令和３年 10 月）　＞

様式 3－6

鉄 筋 組 立 検 査 結 果 一 覧 表

工 事 名 ：　　受注会社名 ：

工 種 名 ：

番号	測定年月日	径(mm)及び本数(本)		中 心 間 隔 (mm)				か ぶ り (mm)			組立状況(継手長、曲げ状況、結束等)	備　考
		設計値	判定	設計値	検査値	設計値との差	判定	設計値	検査値	判定	判　　定	

測定箇所 ：（設計上の位置及び名称）　　測　定　者

記入事項

1. かぶりの許容誤差は±φかつ最小かぶり以上とする。
2. 鉄筋間隔の許容誤差は±φとする。
3. 判定欄は合格、不合格を記入する。

＜現行（令和元年 10 月）＞

様式 3－6

鉄 筋 組 立 検 査 結 果 一 覧 表

工 事 名 ：　　受注会社名 ：

工 種 名 ：

番号	測定年月日	径(mm)及び本数(本)		中 心 間 隔 (mm)				か ぶ り (mm)			組立状況(継手長、曲げ状況、結束等)	備　考
		設計値	判定	設計値	検査値	設計値との差	判定	設計値	検査値	判定	判　　定	

測定箇所 ：（設計上の位置及び名称）　　測　定　者　　印

記入事項

1. かぶりの許容誤差は±φかつ最小かぶり以上とする。
2. 鉄筋間隔の許容誤差は±φとする。
3. 判定欄は合格、不合格を記入する。

＜備　考＞

宮城県農業土木工事施工管理基準　新　旧　対　照　表（令和３年１０月）

（下線の部分は改正部分）

＜　改定後（令和３年 10 月）　＞

様式 4

杭打ち成績表

工 事 名 ：　　受注会社名 ：

工 種 名 ：　　測 定 者

杭打込み月　日	杭番号	杭規格	測定時杭深度(m)	ハンマー落下高(cm)	打込回数	リバウンド(cm)	平均沈下量(cm)	支持力(kN)	摘要

杭配置図

適用公式名：

設計支持力：

＜現行（令和元年 10 月）＞

様式 4

杭打ち成績表

工 事 名 ：　　受注会社名 ：

工 種 名 ：　　測 定 者　　印

杭打込み月　日	杭番号	杭規格	測定時杭深度(m)	ハンマー落下高(cm)	打込回数	リバウンド(cm)	平均沈下量(cm)	支持力(kN)	摘要

杭配置図

適用公式名：

設計支持力：

＜備　考＞

宮城県農業土木工事施工管理基準　新　旧　対　照　表（令和３年１０月）

（下線の部分は改正部分）

＜　改定後（令和３年 10 月）　＞

（品質管理関係）

様式 5-1

$\overline{X}$ - R 管 理 デ ー タ シ ー ト

工　事　名　　受注会社名

工種名（名称）　　測定者

項目名（品質特性）　　作成者

設計基準値 A	規格値 限界 上限	規格値 限界 下限	測定単位
	+	−	

日標準量		
資料 大きさ		
資料 間隔		
作業機械名		

月日	測点	組番の号	測定値 X_1	測定値 X_2	測定値 X_3	計 ΣX	平均値 $\overline{X}$	範囲 R			
		1									
		2									
		3								X	R
		4							平均	$\overline{\overline{X}}$	$\overline{R}$
		5							累計		
小計									小計		
		6									
		7									
		8									
		9							平均	$\overline{\overline{X}}$	$\overline{R}$
		10							累計		
小計									小計		
		11									
		12									
		13									
		14									
		15									
		16									
		17									
		18									
		19							平均	$\overline{\overline{X}}$	$\overline{R}$
		20							累計		
小計									小計		

（注）
1. 管理限界線の引直しは、5-5-10-20-20方式による。
2. 21組から40組までは別のデータシートに記入する。以下、20組ごとに同様とする。

記事

記入要領
1. 「項目名」はコンクリート（セメントの物理試験）、道路工（含水量試験）等の品質特性を記入する。
2. 「月日」の欄は測定年月を記入する。
3. 「番号」の欄はSTA又はロット番号である。
4. 「測点」の欄は当該測点番号を記入する。

n	d_2	A_2	D_4
2	1.13	1.88	3.27
3	1.69	1.02	2.57
4	2.06	0.73	2.28
5	2.33	0.58	2.11

＜現行（令和元年 10 月）＞

（品質管理関係）

様式 5-1

$\overline{X}$ - R 管 理 デ ー タ シ ー ト

工　事　名　　受注会社名

工種名（名称）　　測定者　　印

項目名（品質特性）　　作成者　　印

設計基準値 A	規格値 限界 上限	規格値 限界 下限	測定単位
	+	−	

日標準量		
資料 大きさ		
資料 間隔		
作業機械名		

月日	測点	組番の号	測定値 X_1	測定値 X_2	測定値 X_3	計 ΣX	平均値 $\overline{X}$	範囲 R			
		1									
		2									
		3								X	R
		4							平均	$\overline{\overline{X}}$	$\overline{R}$
		5							累計		
小計									小計		
		6									
		7									
		8									
		9							平均	$\overline{\overline{X}}$	$\overline{R}$
		10							累計		
小計									小計		
		11									
		12									
		13									
		14									
		15									
		16									
		17									
		18									
		19							平均	$\overline{\overline{X}}$	$\overline{R}$
		20							累計		
小計									小計		

（注）
1. 管理限界線の引直しは、5-5-10-20-20方式による。
2. 21組から40組までは別のデータシートに記入する。以下、20組ごとに同様とする。

記事

記入要領
1. 「項目名」はコンクリート（セメントの物理試験）、道路工（含水量試験）等の品質特性を記入する。
2. 「月日」の欄は測定年月を記入する。
3. 「番号」の欄はSTA又はロット番号である。
4. 「測点」の欄は当該測点番号を記入する。

n	d_2	A_2	D_4
2	1.13	1.88	3.27
3	1.69	1.02	2.57
4	2.06	0.73	2.28
5	2.33	0.58	2.11

＜備　考＞

宮城県農業土木工事施工管理基準　新　旧　対　照　表（令和３年１０月）

（下線の部分は改正部分）

＜　改定後（令和３年 10 月）　＞

様式 5-2

$\overline{X}$ - R 管 理 デ ー タ シ ー ト

工　事　名　　受注会社名
工種名（名称）　　測定者
項目名（品質特性）　　作成者

設計基準値 A	規格値限界 上限	規格値限界 下限	測定単位
	+	−	

日標準量		
資料 大きさ		
資料 間隔		
作業機械名		

月日	測点	組番の号	測定値 X_1	測定値 X_2	測定値 X_3	計 ΣX	平均値 $\overline{X}$	範囲 R				
									平均	$\overline{\overline{X}}$	$\overline{R}$
									累計		
小計									小計		

特記

（注）　1．管理限界線の引直しは、5-5-10-20-20方式による。
　　2．21組から40組までは別のデータシートに記入する。以下、20組ごとに同様とする。

記入要領
1．「項目名」はコンクリート（セメントの物理試験）、道路工（含水量試験）等の品質特性を記入する。
2．「月日」の欄は測定年月を記入する。
3．「番号」の欄はSTA又はロット番号である。
4．「測点」の欄は当該測点番号を記入する。

n	d_2	A_2	D_4
2	1.13	1.88	3.27
3	1.69	1.02	2.57
4	2.06	0.73	2.28
5	2.33	0.58	2.11

＜現行（令和元年 10 月）＞

様式 5-2

$\overline{X}$ - R 管 理 デ ー タ シ ー ト

工　事　名　　受注会社名
工種名（名称）　　測定者　　印
項目名（品質特性）　　作成者　　印

設計基準値 A	規格値限界 上限	規格値限界 下限	測定単位
	+	−	

日標準量		
資料 大きさ		
資料 間隔		
作業機械名		

月日	測点	組番の号	測定値 X_1	測定値 X_2	測定値 X_3	計 ΣX	平均値 $\overline{X}$	範囲 R				
									平均	$\overline{\overline{X}}$	$\overline{R}$
									累計		
小計									小計		

特記

（注）　1．管理限界線の引直しは、5-5-10-20-20方式による。
　　2．21組から40組までは別のデータシートに記入する。以下、20組ごとに同様とする。

記入要領
1．「項目名」はコンクリート（セメントの物理試験）、道路工（含水量試験）等の品質特性を記入する。
2．「月日」の欄は測定年月を記入する。
3．「番号」の欄はSTA又はロット番号である。
4．「測点」の欄は当該測点番号を記入する。

n	d_2	A_2	D_4
2	1.13	1.88	3.27
3	1.69	1.02	2.57
4	2.06	0.73	2.28
5	2.33	0.58	2.11

＜備　考＞

宮城県農業土木工事施工管理基準　新　旧　対　照　表（令和３年１０月）

（下線の部分は改正部分）

＜　改定後（令和３年 10 月）　＞

様式 5-3

$\bar{X}$ － R 管 理 図

設計基準値		工事名		事業所名			
名称		日標準量		期間	自	年 月 日	
品質特性		規格値限界	上限値		至	年 月 日	
測定単位			下限値	受注会社名			
測定方法		試料	大きさ	現場代理人			
作業機械名			間隔	測定者			

$\bar{X}$																			
R																			
組の番号																			
記事																			

注）1.管理図は、別紙$\bar{X}$-R管理データシートから記入する。
　　2.記事欄には、異常原因、その他必要事項を記入する。

＜現行（令和元年 10 月）＞

様式 5-3

$\bar{X}$ － R 管 理 図

設計基準値		工事名		事業所名			
名称		日標準量		期間	自	年 月 日	
品質特性		規格値限界	上限値		至	年 月 日	
測定単位			下限値	受注会社名			
測定方法		試料	大きさ	現場代理人			印
作業機械名			間隔	測定者			印

$\bar{X}$																			
R																			
組の番号																			
記事																			

注）1.管理図は、別紙$\bar{X}$-R管理データシートから記入する。
　　2.記事欄には、異常原因、その他必要事項を記入する。

＜備　考＞

宮城県農業土木工事施工管理基準　新　旧　対　照　表（令和３年１０月）

（下線の部分は改正部分）

＜　改定後（令和３年 10 月）　＞	＜現行（令和元年 10 月）＞	＜備　考＞

改定後（令和３年 10 月）

様式 6-1

X-Rs-Rm 管 理 デ ー タ シ ー ト

名称		工事名		測定期間	自	年 月 日
品質・特性		事業所名			至	年 月 日
測定単位		日標準量		受注会社名		
規格限界 上限値		試料 大きさ		現場代理人		
規格限界 下限値		試料 間隔		測定者		
設計基準値		作業機械名		作成者		

月日	試験番号	測定値 a	b	c	d	計 Σ	平均値 $\bar{X}$	移動範囲 Rs	測定値内の範囲 Rm	
	1									$\bar{X}\pm E_2\cdot\bar{R}s=$
	2									$D_4\cdot\bar{R}s=$
	3									$D_4\cdot\bar{R}m=$
	4									
	5									累計
	小計									小計
	6									$\bar{X}\pm E_2\cdot\bar{R}s=$
	7									$D_4\cdot\bar{R}s=$　$D_4\cdot Rm=$
	8									平均 $\bar{X}=$ $\bar{R}s=$ $\bar{R}m=$
	小計									累計
										小計
	9									$\bar{X}\pm E_2\cdot\bar{R}s=$
	10									$D_4\cdot\bar{R}s=$
	11									$D_4\cdot\bar{R}m=$
	12									平均 $\bar{X}=$ $\bar{R}s=$ $\bar{R}m=$
	13									累計
	小計									小計
	14									$\bar{X}\pm E_2\cdot\bar{R}s=$
	15									$D_4\cdot\bar{R}s=$
	16									$D_4\cdot\bar{R}m=$
	17									
	18									
	19									平均 $\bar{X}=$ $\bar{R}s=$ $\bar{R}m=$
	20									累計
	小計									小計

記事

	X	Rs	Rm
平均	$\bar{X}=$	$\bar{R}s=$	$\bar{R}m=$

n	d_2	D_4	E_2
2	1.13	3.27	2.66
3	1.69	2.57	1.77
4	2.06	2.28	1.46
5	2.33	2.11	1.29

注）1. 規格限界、設計基準値は設計図書に定められた値を記入する。
2. 管理限界線の引直しは5-3-5-7-10-10-10方式による。

（備考）———— 管理限界計算のための予備データの区間を示す。
-------- 上記の管理限界を運用する区間を示す。
3. 以下、最近20個（平均値 x を1個とする）のデータを用い、次の10個に対する管理限界とする。

様式　6-2　　［略］

現行（令和元年 10 月）

様式 6-1

X-Rs-Rm 管 理 デ ー タ シ ー ト

名称		工事名		測定期間	自	年 月 日
品質・特性		事業所名			至	年 月 日
測定単位		日標準量		受注会社名		
規格限界 上限値		試料 大きさ		現場代理人		印
規格限界 下限値		試料 間隔		測定者		印
設計基準値		作業機械名		作成者		印

月日	試験番号	測定値 a	b	c	d	計 Σ	平均値 $\bar{X}$	移動範囲 Rs	測定値内の範囲 Rm	
	1									$\bar{X}\pm E_2\cdot\bar{R}s=$
	2									$D_4\cdot\bar{R}s=$
	3									$D_4\cdot\bar{R}m=$
	4									
	5									累計
	小計									小計
	6									$\bar{X}\pm E_2\cdot\bar{R}s=$
	7									$D_4\cdot\bar{R}s=$　$D_4\cdot Rm=$
	8									平均 $\bar{X}=$ $\bar{R}s=$ $\bar{R}m=$
	小計									累計
										小計
	9									$\bar{X}\pm E_2\cdot\bar{R}s=$
	10									$D_4\cdot\bar{R}s=$
	11									$D_4\cdot\bar{R}m=$
	12									平均 $\bar{X}=$ $\bar{R}s=$ $\bar{R}m=$
	13									累計
	小計									小計
	14									$\bar{X}\pm E_2\cdot\bar{R}s=$
	15									$D_4\cdot\bar{R}s=$
	16									$D_4\cdot\bar{R}m=$
	17									
	18									
	19									平均 $\bar{X}=$ $\bar{R}s=$ $\bar{R}m=$
	20									累計
	小計									小計

記事

	X	Rs	Rm
平均	$\bar{X}=$	$\bar{R}s=$	$\bar{R}m=$

n	d_2	D_4	E_2
2	1.13	3.27	2.66
3	1.69	2.57	1.77
4	2.06	2.28	1.46
5	2.33	2.11	1.29

注）1. 規格限界、設計基準値は設計図書に定められた値を記入する。
2. 管理限界線の引直しは5-3-5-7-10-10-10方式による。

（備考）———— 管理限界計算のための予備データの区間を示す。
-------- 上記の管理限界を運用する区間を示す。
3. 以下、最近20個（平均値 x を1個とする）のデータを用い、次の10個に対する管理限界とする。

様式　6-2　　［略］

宮城県農業土木工事施工管理基準　新　旧　対　照　表（令和３年１０月）

（下線の部分は改正部分）

＜　改定後（令和３年 10 月）　＞

様式 7

X － Rs － Rm 管理図

設計基準値		工事名		事業所名			
名称		日標準量		期間	自	年　月　日	
品質特性		規格値限界	上限値		至	年　月　日	
測定単位			下限値	受注会社名			
測定方法		試料	大きさ	現場代理人			
作業機械名			間隔	測定者			

X	
Rs	
Rm	
組の番号	
記事	

注）1. 管理図は、別紙X-Rs-Rm管理データシートから記入する。
　　2. 記事欄には、異常原因、その他必要事項を記入する。

＜現行（令和元年 10 月）＞

様式 7

X － Rs － Rm 管理図

設計基準値		工事名		事業所名			
名称		日標準量		期間	自	年　月　日	
品質特性		規格値限界	上限値		至	年　月　日	
測定単位			下限値	受注会社名			
測定方法		試料	大きさ	現場代理人			印
作業機械名			間隔	測定者			印

X	
Rs	
Rm	
組の番号	
記事	

注）1. 管理図は、別紙X-Rs-Rm管理データシートから記入する。
　　2. 記事欄には、異常原因、その他必要事項を記入する。

＜備　考＞

宮城県農業土木工事施工管理基準　新　旧　対　照　表（令和３年１０月）

（下線の部分は改正部分）

＜　改定後（令和３年 10 月）　＞	＜現行（令和元年 10 月）＞	＜備　考＞

改定後

様式 8

年度

工事アルバム　冊

事業所

支　所　　受注会社名

（測点No.　　～No.　　）　測　定　者

月　日	工　種	記　事

注）１．標題には施工年度、工事名を記入し、１／３冊、２／３冊……と番号をつけ、当冊に収められている測点No.を（　）内に記入する。
２．記事欄は撮影補足説明、整理及び保存番号、既済検査記録等主要な説明事項を記入する。
３．本様式は、アルバムの表紙あるいは内紙に設けるものとする。

現行

様式 8

平成　年度

工事アルバム　冊

事業所

支　所　　受注会社名

（測点No.　　～No.　　）　測　定　者　　印

月　日	工　種	記　事

注）１．標題には施工年度、工事名を記入し、１／３冊、２／３冊……と番号をつけ、当冊に収められている測点No.を（　）内に記入する。
２．記事欄は撮影補足説明、整理及び保存番号、既済検査記録等主要な説明事項を記入する。
３．本様式は、アルバムの表紙あるいは内紙に設けるものとする。